

平成30年度 学校アクションプラン

重点項目	1. 教科指導	
重点課題	学習習慣の定着と基礎学力の向上	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・平日、休日共に学習時間が少ない。 ・学習時間数が少ない原因として、学力不足だけでなく部活動との両立に苦慮している生徒もいる。 ・基礎学力が不足している生徒は、授業中の集中力に欠ける面がある。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の授業理解度を高める。 ・生徒の授業態度を向上させる。 ・授業外での学習時間を向上させる。 	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業の理解度・取り組み度調査」を実施し、教員は生徒の理解度と取り組みに関する自己評価を定期的に把握する。その結果をもとに、わかりやすい授業につなげる。 ・「学習時間調査」(授業期間・考査期間) および「学習に関する調査」(学期末) を各学期に実施し、学習時間数と取り組み教科の推移を検証する。その結果を基に学力向上に向けての助言を行う。 	
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身による学習習慣の振り返りとして、毎学期「学習時間調査」と「学習に関する調査」を実施し、集計結果を職員会議で報告。授業改善、学習意欲の喚起につなげてもらった。 ・生徒の生の声を吸い上げるため、授業理解度と授業の取り組み度に関する調査を始めて実施。(2学期末) 集計結果を年度末職員会議で報告し、授業改善につなげる資料として活用してもらった。 ・主体的な学びにつなげる授業構築に向けての「互見授業」及び「校内研修」を実施。(1・2学期) 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習時間調査」実施(授業期間：2/12～2/18 期末考査期間：2/21～2/27) (※集計結果は4月の職員会議で報告予定。) ・「授業アンケート」(12月実施)の集計と報告 	
評 価	B	年度当初予定していた施策はおおむね実施した。生徒の家庭学習状況については、通常授業期間中は約60%の生徒が、考査期間中は約95%が家庭学習をしていた。また授業理解度に関しては、ほぼすべての教科において約75%～80%の理解度を示していた。
次年度へ向けての課題	<p>新たな試みとして「授業アンケート」を実施したところ、各教科の授業理解度はおおむね高かった。次のステップとして、その理解を学力として定着させるための課題(家庭学習用)を定期的に提供することが重要である。「宿題を通しての反復学習」が学習時間増加につながるはずであり、教員一人ひとりのためにも教材研究と課題作成力の向上が大切である。</p>	

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	2. 宗教教育	
重点課題	「学園の心」の具現化に努める。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・慈光堂を、本校における「特別な場所」として教職員・生徒ともに認識していることが、礼拝の態度から感じることができる。 ・教職員・生徒が一体となって宗教行事に取り組んでおり、それは歌声に反映されている。 	
達成目標	<p>宗教行事の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慈光堂は、大切なものを大切にする仕方を学ぶ場所であることを理解させる。 ・開扉中の慈光堂では、教職員生徒ともに、心を落ち着かせる時間・人の話に耳を傾ける時間であることを共通認識とする。 ・教室、慈光堂に響きわたる歌声を出す。 	
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・慈光堂内で教員が指示をしないですむように、慈光堂に入る前に教室で指導をする(生徒の主体的な行動を促す)。 ・多くの教員に講話の機会を持ってもらい、宗門校の教職員であるという意識を高める。 ・「報恩の日」に生徒(3年生)が話す機会を設けることで、生徒自身が同世代の思いや考えを知り、己の日常に刺激を与えるきっかけとする。 	

達成度	宗門校らしく、厳かな雰囲気の中で宗教行事に取り組むことができた。	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の礼拝で、一度した話ほしないよう、多様な観点からの講話を心がけた。 ・非常勤の先生にも、学年礼拝での講話を担当してもらった。 ・「報恩の日」の3年生の講話が、下級生への良い刺激となった。 ・3つの行事の講話講師を、他県から招聘した。 	
評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、多くの先生が報恩の日の礼拝・学年礼拝・クラス礼拝での講話の準備を徹底し、生徒の琴線に触れる話をした。 ・全校報恩講以降の、県外講師の講話は概ね好評だった。 ・誰かの話を聴き、それに刺激を受け、「私も話したい」と申し出てくれた先生がいたことは、嬉しい限りである。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ある先生から「生徒の合掌する姿が年々美しくなっている」との評価をいただいた。今後も慈光堂での雰囲気づくりを大切にしていきたい。 ・毎朝の礼拝・学年礼拝・クラス礼拝・報恩講等の行事が、生徒が「言われてみれば確かにそうだな」と気付ける、よいきっかけとなる場としたい。 	

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	3. 進路指導	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・受験力の向上を目指し、進学実績の向上を図る。 ・個々の生徒の志望・適性に合った就職先を選択し、進路の実現を図る。 	
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・大学への進学は、依然として推薦が中心であるものの、一般受験・AOによる受験も増えつつある。 ・プロジェクトSや土曜講習への取り組みは向上してきており、その成果も出てきている。 ・就職内定率は向上してきているが、早期の離職が問題となりつつある。 	
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学合格者を60名以上を目標とするとともに、一般受験での合格者の増加に努める。 ・就職希望者の全員合格と、第一次出願者の内定率85%以上を目指す。 	
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の進路面談の充実を図り、受験計画・受験勉強の改善を進める。 ・「応募前見学」の徹底を図るとともに、学校と企業のよりよき関係の構築に努める。 	
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・大学合格者は78名（四大 53、短大25）で目標を達成した。一般受験者も進学コースを中心に増えつつある。 ・就職希望者も最終的に全員の内定が決定した。10月以降の応募者は、すべて1回で内定が決定した。（最終合格率 94%） 	
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体の協力体制のもと、各種の行事・指導により進学者の指導が行い得た。進学クラブやプロジェクトSの参加者の多くが所期の目標を達成した。 ・7月以降学年団の細やかな指導により、就職希望者全員の内定を勝ち取ることができた。 	
評価	B	進学・就職とも順調に推移した。ただし、最終段階になって保護者の事情から志望の変更をせざるを得なかったケースがあった。家庭との共通理解が課題である。
次年度へ向けての課題	大学入試改革が迫ってきており、その対応について留意していきたい。	

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	4. 生徒指導	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめを許さない学校づくり、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める。 ・挨拶、富山県No.1を目指す！ 	
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・学年主任、学年指導部との連携を密に行い、いじめにつながる問題行動の早期対応に努めている。 ・しっかり挨拶ができる生徒と、できない生徒との差が出てきた。 	

達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ『ゼロ』 ・挨拶『県下一』
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の声に耳を傾け、小さなことも見逃さない。各学年と協力し、学年集会などを通して規律ある学校生活を送れるよう指導する。 ・『Eyes and the eyes』目と目を合わせて、しっかり挨拶できるよう指導する。
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・学年や生徒会とも連携を取り、学校全体でいじめ防止に取り組み、おおむね目標を達成できた。 ・『Eyes and the eyes』の挨拶ができる生徒が少しずつ増えてきた。挨拶『県下一』を達成できるようにしたい。
具体的な取り組み状況	学園生活調査を元に生徒の声に早期対応した。全校集会や全校放送を流し、生徒に注意喚起した。全職員にも呼びかけ目と目を合わせて挨拶ができるようお願いした。
評 価	B いじめに発展する可能性のある問題行動があったが、その後の対応で未然に防ぐことができた。ネットトラブルや非行傾向の問題行動は減少しているが、幼稚なトラブルが多くなっている。今後一層、注意深く指導していく必要がある。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、いじめがいつでも起こり得るものという認識で、早期発見・早期対応に努めていきたい。 ・また、SNSでの誹謗中傷によるいじめに対しても強化していきたい。 ・全職員、全生徒で県下一挨拶のできる学校づくりに取り組んでいきたい。

・問<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	5. 特別活動
重点課題	生徒の自主的、自発的活動の場をできるだけ多く設定し、その活動を通して責任、協調、進取の能力を養い、豊かな人間関係や実りある学校生活ができる人間性を育成する。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事には真面目に取り組んでおり、それがクラスの活性化に良い効果をもたらしている。 ・挨拶がしっかりとでき、ボランティア活動等にも積極的に参加する生徒が多い。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事において生徒一人一人が活躍できる場を提供し、行事等に参加している一員であることを認識する。 ・何事にも進んで参加する。(挨拶、ボランティア等)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行部を中心に学校行事(競技大会、体育大会、文化活動発表会)が成功するようにする。 ・委員会活動(美化・校紀・福祉)の活性化。 ・ポスター等を用いて、いじめ・環境美化の啓蒙活動をする。(他の部署、文化部との協力)
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の主要な行事をスムーズに実施することができた。 ・後期執行部員数が少なくなったので仕事量、スピードがやや落ちた。
具体的な取り組み状況	校門でのあいさつ運動を実施。 ボランティア活動参加(校内、校外 一般生徒の参加含む) 他部署との連携
評 価	B ボランティア活動、いじめ防止ポスター制作や年間行事実施を生徒会執行部中心に実施できた。
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・目安箱を設置して生徒会活動に関心を高めてもらおうとしたが、執行部との視点の相違があった。実施目標をわかりやすくして一般生徒にさらに関心を持ってもらうようにしていく必要がある。 ・部活動加入率を高めたい。

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

重点項目	6. 環境と健康指導
重点課題	環境美化 生徒自身の健康意識の向上
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・廊下等で時々綿埃が見受けられる。 ・健康診断後の受診率が低い。

達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・常に綿埃等のないきれいな校内にする。 ・健康診断後の受診率を各クラス30%以上、全体で40%以上。 		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・環境美化が損なわれた時点で、集会の折や校内放送で呼びかける。 ・年間を通して花のある環境に努める。 ・健康診断後、毎月初めに受診状況を配布し、受診勧奨の一助とする。 ・「ほけんだより」により、健康意識を持たせる。 ・保健講座の実施。 		
達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・大きなゴミが落ちていることはないが、廊下等で綿ほこりがある箇所が所々にある。 ・健康診断後の受診率で30%以上のクラスが18クラス、全体で36,1%。 		
具体的な取り組み状況	<ul style="list-style-type: none"> ・校内放送で2回環境美化について現状報告した。 ・空き時間に校内を巡回し、環境整備の点検。 ・天候不順のため、美化委員による校外清掃ができなかった。 ・毎月受診状況、保健便りを配布した。 ・保健講座の実施。 		
評 価	<table border="1"> <tr> <td>C</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・環境面はよくなりつつある。 ・受診率は昨年より1パーセント伸びた。 </td> </tr> </table>	C	<ul style="list-style-type: none"> ・環境面はよくなりつつある。 ・受診率は昨年より1パーセント伸びた。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・環境面はよくなりつつある。 ・受診率は昨年より1パーセント伸びた。 		
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日学校行事があるつもりで環境整備に取り組む。 ・早期治療を理解させる必要がある。 		

<評価基準> A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった